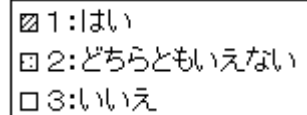


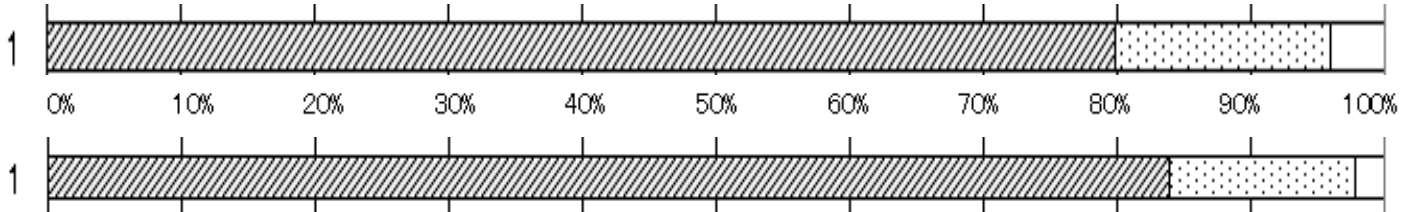
平成29年度 第1回長尾っ子アンケート 集計結果

上段：昨年度第1回結果

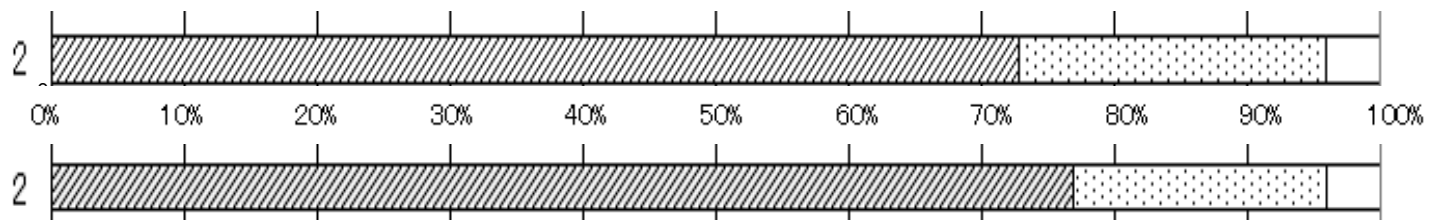
下段：今年度第1回結果



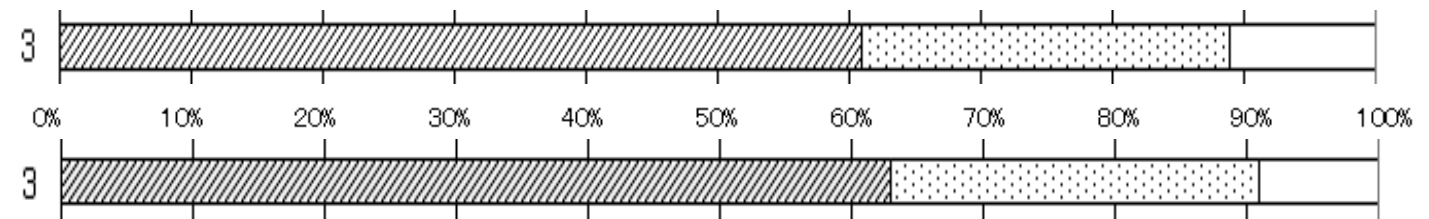
1 学校生活は楽しいですか。



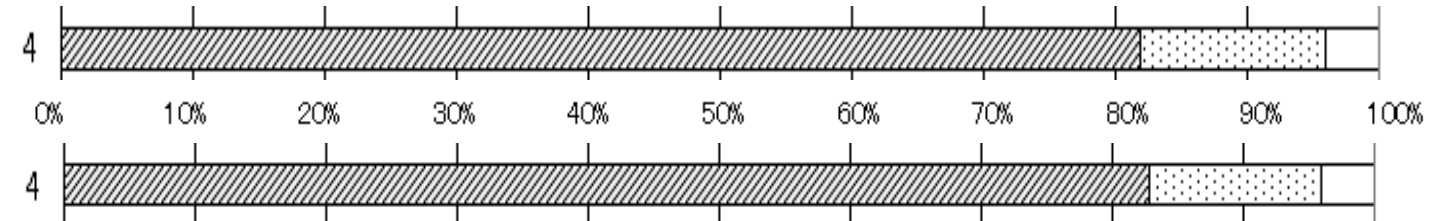
2 授業内容は、よく分かりますか。



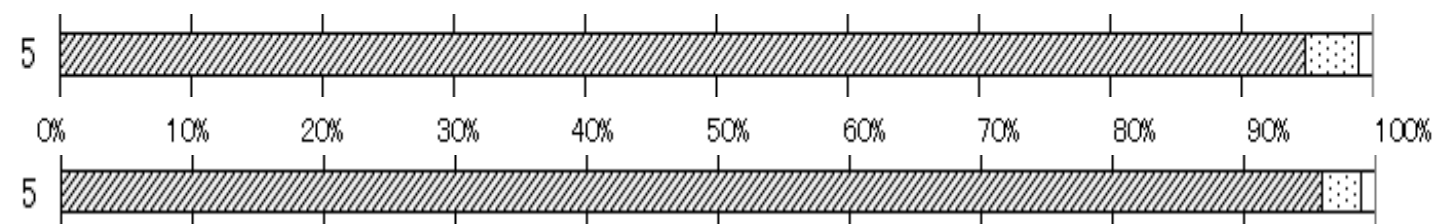
3 学級で、安心して自分の意見や考えが発表できますか。



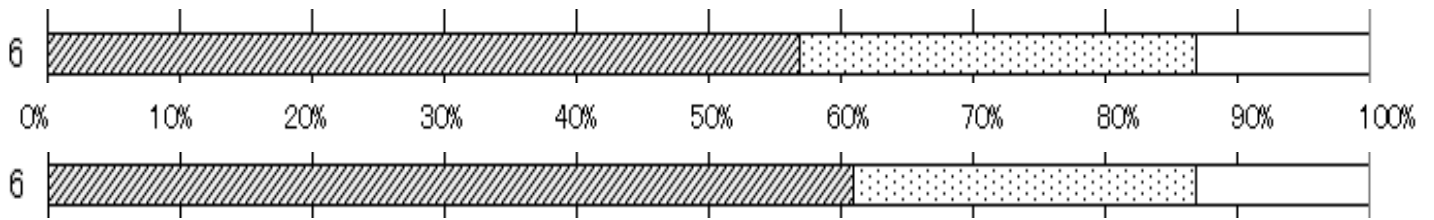
4 困ったとき、相談できる先生はいますか。



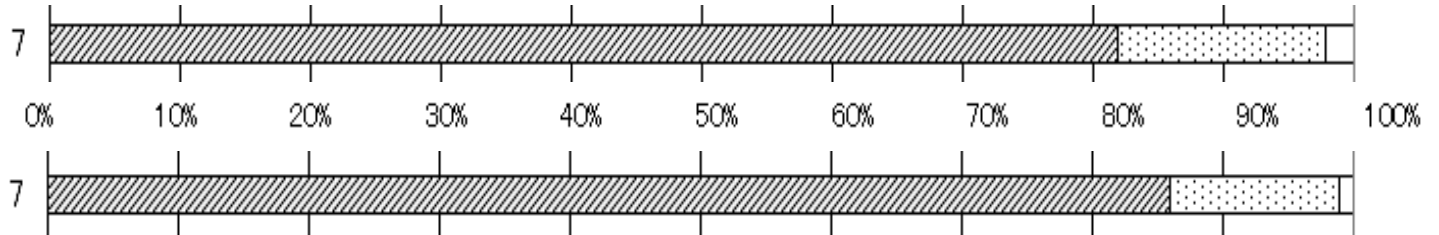
5 仲のよい友達がありますか。



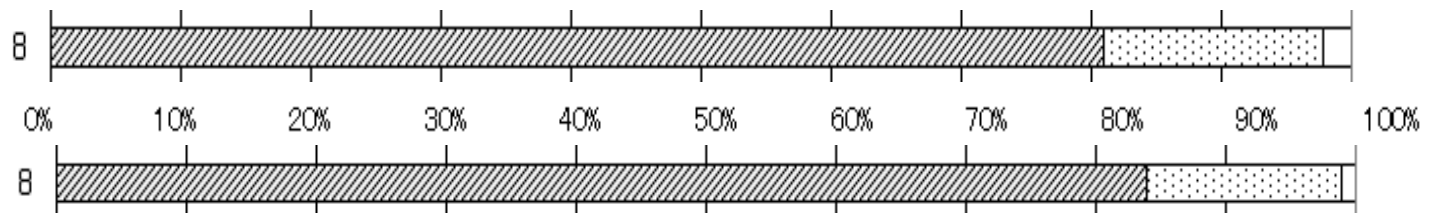
6 自分のよいところと言えますか。



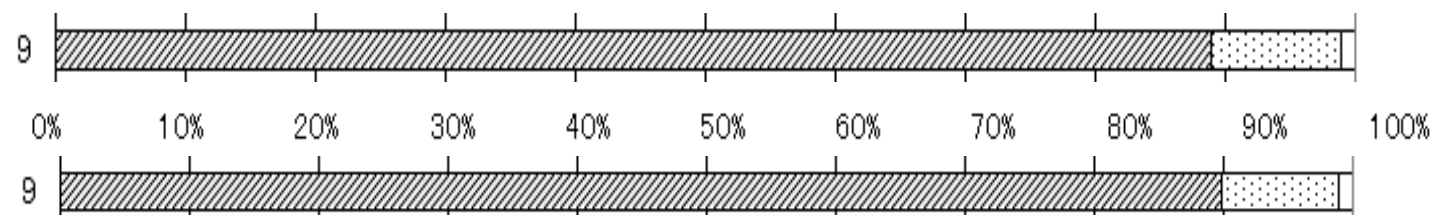
7 友達に優しくしていますか。



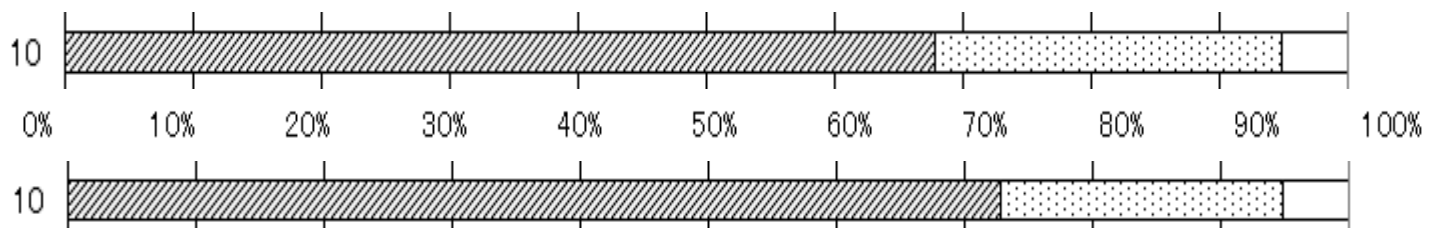
8 学校のきまりや約束をいつも守っていますか。



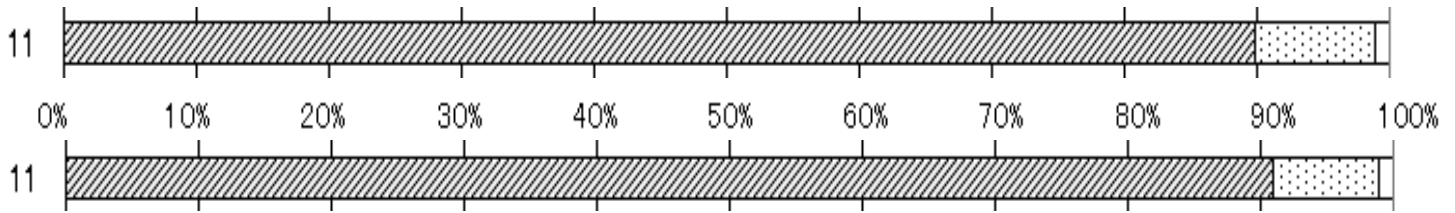
9 係や当番の仕事をきちんとしていますか。



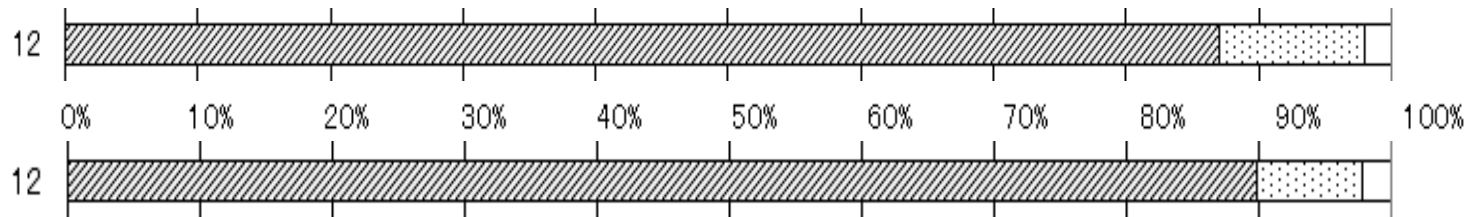
10 自分から進んで、元気よく挨拶をしていますか。



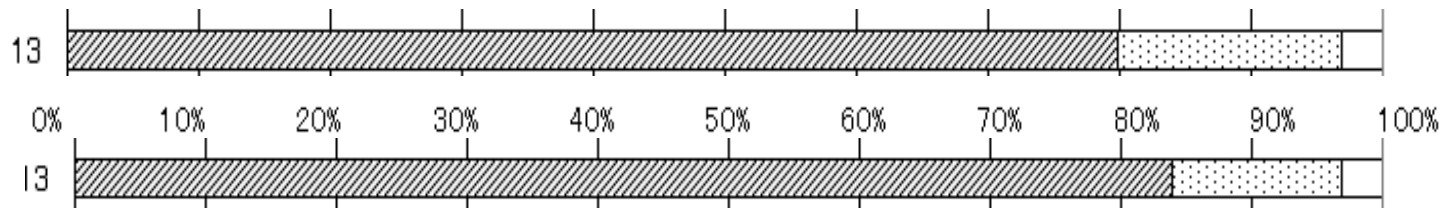
1 1 名前を呼ばれたとき、きちんと返事をしていますか。



1 2 宿題を家できちんとしていますか。



1 3 周りの人に「ありがとう」と自分から言えていますか。



<第1回長尾っ子アンケートの考察>

○ 評価の高かった項目（「はい」が81%以上） ※（ ）内は「いいえ」の割合

1	学校生活は楽しいですか。	84%	(2%)
4	困ったとき、相談できる先生がいますか。	83%	(4%)
5	仲のよい友達がありますか。	96%	(1%)
7	友達に優しくしていますか。	86%	(1%)
8	学校のきまりや約束を守っていますか。	84%	(1%)
9	係や当番の仕事をきちんとしていますか。	90%	(1%)
11	名前を呼ばれたとき、きちんと返事をしていますか。	91%	(1%)
12	宿題を家できちんとしていますか。	90%	(2%)
13	周りの人に「ありがとう」と自分から言えていますか。	84%	(3%)

○ 評価が低かった項目（「はい」が74%以下） ※（ ）内は「いいえ」の割合

3	学級で、安心して自分の意見や考えが発表できますか。	63%	(9%)
6	自分のよいところと言えますか。	61%	(13%)
10	自分から進んで、元気よく挨拶をしていますか。	73%	(5%)

- 昨年度のアンケートの結果と比較すると、「はい」と答えた児童の割合が、全ての項目において増えている。全体的な傾向としては、長尾小学校の児童は充実した学校生活を過ごしている様子がうかがえる。
- 特に、「**5 仲のよい友達がありますか。**」という項目で「はい」と答えた児童の割合が高い。「**1 学校生活は楽しいですか**」という項目でも、昨年度よりもさらに多くの児童が「楽しい」と答えている。良好な友達関係・学級集団の中で楽しい学校生活を過ごしていることがわかる。今後も、この状態が維持できるよう、よりよい学級集団づくりに努めたい。
- 「**9 係や当番の仕事をきちんとしていますか。**」「**11 名前を呼ばれたとき、きちんと返事をしていますか。**」「**12 宿題を家できちんとしていますか。**」という項目でも、「はい」と答えた児童の割合が高く、係や当番の仕事、家庭学習等、自分がすべきことにまじめに取り組むことができる児童が増えており、指導の成果が上がっているといえる。

また、「**4 困ったとき、相談できる先生はいますか。**」の項目でも、昨年度同様に多くの児童が「はい」と答えている。教師に対する信頼感・安心感をもって学校生活を過ごせるようになってきていることが分かる。今後も、この状態が維持できるよう努めたい。

しかし、これらの項目で約1%の児童が「いいえ」と答えていることも事実である。このことを見過ごすことなく、今後もよりよい集団づくりに取り組んでいく必要がある。

- 「**3 学級で、安心して自分の意見や考えが発表できますか。**」という項目で、「はい」と答えた児童は、昨年度同時期と比べると増えてはいるが、63%と依然として低い。

記述欄に、『自分の考えを発表したいけれど、自信がなくてできない。』『間違えたら恥ずかしい。』と記入している児童も数名いた。昨年度の取り組みによって少しずつ改善されてきているが、本年度も、教師全員で共通意識をもち、児童一人一人の「わかった」「できた」という思いを大切に授業づくりについて研修を深めていきたい。

- 「**6 自分のよいところが言えますか。**」の項目が、依然として評価が低い。しかし、昨年度の同時期と比べると、「はい」と答えた児童がわずかではあるが増えてきている。これは、昨年度、教師が、様々な活動をとおして児童一人一人のよさを見出して称揚し、学級の中に広げながら、互いに認め合う地道な取組を行った成果が実りつつあると言ってよいだろう。

児童の自尊感情や自己肯定感を高めていくためには、児童一人一人が所属感をもつことができる、安心感のある学級経営が基盤となる。「自分の存在はこの集団の中で役立っている。」「自分はここにいていいのだ。」という所属感をもつことが自尊感情を育てる。本年度も、よかったことは、たとえ小さなことでも保護者に伝えるなどして家庭との連携を密にし、児童の自尊感情を高めていくことができるよう、引き続き努力していきたい。

<記述欄から>

- 今回の「長尾っこアンケート」では、登下校時の問題についての記述が目立ちました。

- ・ 登校班の並び方がよくない。(横に道いっぱい広がって歩いている。)
- ・ 下校(低学年のどうぶつ下校)のとき、並ばないで追い抜いて行く人がいる。
- ・ 登校班長が他の班の人と二列になって歩いて行くので、困っている。
- ・ 登校班の集合時間が守られていなくて、おいて行かれることがあり困っている。 など

登校班長・副班長会を行ったり，地区別下校の機会をとらえたりして，適切な指導をしていきたい。

● **家の人や友達の心ない一言に傷ついている子どもの姿もうかがえた。**

- ・ お父さんお母さんに、『○○さんと一緒に遊ぶな。』と言われて悲しい。
- ・ 友達に，言われたくないあだ名をしつこく言われるのがつらい。
- ・ 男子と一緒にいるだけで、『リア充』などと言われる。 など

○ **本年度の「長尾っこアンケート」では，記述欄に自分自身を肯定的にとらえた記述も多かった。**

- ・ ぼくは，○○ができるよ。
- ・ ぼくは，お手伝いを頑張っています。
- ・ 近所の人に自分から挨拶ができました。
- ・ 今は自分から発表ができないから，頑張ります。 など

このようなものの見方，とらえ方は，日々の教師のちょっとした声かけの積み重ねから培われていくものなので，教師自身も児童一人一人のよさや頑張りを認め，受容的な言葉を増やしていくよう努めたい。

※ 次回の「長尾っこアンケート」は，11月に行います。